

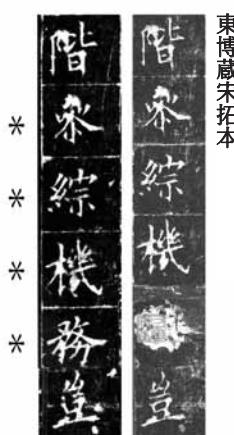
「落ち穂拾い記」(26) 『幻の皇甫誕碑』(補)

(主図版①)



50代の後半、平成14年(2002)の春に、とんでもない素晴らしい『皇甫誕碑』の名帖が出現した。香港のクリスティーオークションの春の売り立て図録に、王羲之の宋拓黄庭經とともに、「宋拓皇甫誕碑」が出品されていた。図録のカラー写真と解説からこれまで目にしてきた欧阳詢の皇甫誕碑の拓本中、最高の部類に属する名品と見た。簡単に紹介しよう。表紙は布袋で、中央上部に「宋搨皇甫誕碑 慎徳堂珍藏」の題簽がある(図版④)。碑文巻頭の頁の右端に乾隆の四大家と称せられ書を善くした成親王永瑆(1752~1823)乾隆皇帝の第十子の筆で「隋皇甫府君碑 宋拓本」題簽が付されている。頁あたり5行10字に剪装されている(図版①・⑤)。拓調は、恐らく擦拓の精本であろう。字画は鮮明である。巻末には成親王永瑆と郭尚先(1785~1832)字は元開、蘭石と号し、博学多芸、書を善くした)の跋文が各1頁見ることができる(図版②・③)。その他に清朝の名家の鑑藏印が数種捺されている。宣統皇帝関係の印が三種、孫過庭の書譜を所蔵した安岐(1683~?)字は麓村と号す)、清朝後期の金石家・吳榮光(1773~1843字は立群、梅溪と号す)、英和(1711~1840字は樹琴、煦齋と号す)等の鑑藏印を見ることができる。成親王は、嘉慶十四年(1809)年に吳榮光から価四百両で購入し、以前日にした明の萬歴年間前の未断拓本と比較したが、宋拓であろうと(図版②)、また郭尚先の道光11年(1831)の跋文には、この帖は「參綜機務」の「務」字が完好な宋拓の最精なるものである(図版③・⑦)。初めて呉榮光の所でこの帖

(図版④) クリストイー本表紙

(図版⑦)
参総機務の務字未損

東博藏宋拓本

(図版⑥) Aクリスティー本、B博文堂本、C何紹基本

C何紹基本

B博文堂本

Aクリスティー本

(図版⑤)
クリスティー本鑑藏印

宣統御覽印

成親王印

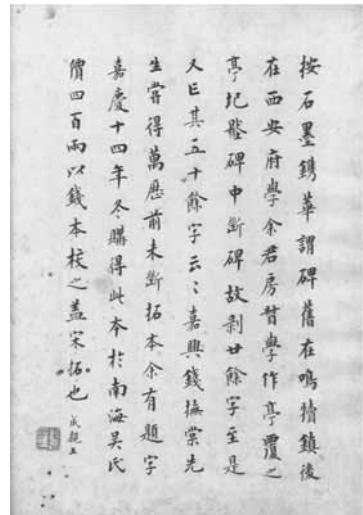
郭尚先印

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

(図版③) 郭尚先跋文



(図版②) 成親王跋文



見てから、今静庵先生の有に帰し、この23年の間に、所蔵者が4度移り変わった。その後、この帖は宣統帝の内府に入り、清末に民間に流出したと推測される。帖の装幀から恐らく明代の内府の庫装本と称される類の碑帖と考えられる。戦前の博文堂本「宋拓皇甫誕碑」(この原本は戦前に羅振玉とともに中国に移り、現在は北京故宮に蔵されている)や北京故宮所蔵の何紹基旧藏本「宋拓皇甫誕碑」と同じ時代の拓であり、同じ頃に剪裁された帖(図版⑥)であり、伝来、跋文、鑑藏印などから、この出品本は「皇甫誕碑の最高拓本」であり、実に得難い天下の名品と認識した。大学を出てから数十年、日本や中国等の古書店等に足をのばし、金石碑帖を求めてきたものとしては、この世界的な名帖を、自己の手中にしたいとの想いが大きくなってきた。何としてでも入手したいと。以前から懇意にしている銀座の中國金石を扱うK氏がこの香港の売り立てに参加されることを知り、清水の舞台から飛び降りるつもりで依頼した。オーケーション当日の結果は、すぐ電話で教えていただいた。やはり無理であった。2004年当時は、中国の経済もまだそれほどでもなく、アメリカや香港のオーケーションには、大陸の方はほとんど参加されていなかった。しかししたらと思つたが、天下の名品「宋拓皇甫誕碑」は、瞬く間に夢の彼方に消えた。しばらくしてこのオーケーション会社の中中国書画の担当M氏が来日された折に、あの名品の巻頭巻末原寸のカラーコピー数葉をいただいた。今でも皇甫誕碑の名を目にすると、あの幻と消えた名品が目に浮かぶ。M氏の言によれば、西洋の方が落札されたと。生きている中に巡り遇いたいものである。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

書道芸術院 令和の群像 (2022)



徳岡翠江

「楽しい」その瞬間を 求めて

私が、その当時書道芸術院山陰支局長であった故岩垣翠城先生の下に入門したのは、大学卒業後2年が経った頃だった。入門当初は諸先輩の方々が条幅作品を書かれる姿に圧倒され、私も早く条幅作品が書けるようになりたいと思ったのだ。岩垣先生は楷・行・草書の古典をそれぞれ示され、丁寧に指導して下さった。書道芸術院展に出品するようになって間もなく、子育てと家業に追われて作品を書く時間が持てずに焦

りを覚えていた頃、「いつか存分に書ける時が来るから」と声をかけて頂いた。その時の先生の言葉によって、今自分のできることを精一杯やればよいのだと自分自身に言い聞かせることができた。

現在は山陰支局長の名越蒼竹先生の下で、同志の方々と共に勉強させて頂いている。個性豊かで年齢もさまざまな方々の中に身を置くことは、私にとって大きな意義がある。掛けそなになる心を奮い起たせたり、つい甘えてしまいそうになる自分に喝を入れてもらえる環境にあることをありがたいと思っている。

昨年10月の秋季展に2点作品を出品する機会を与えて頂いた。その制作過程で、自

分の中に蓄積されたものが何一つないことを改めて思い知られた。名越先生が「計画は綿密に、実行は柔軟に」と書いておられたが、今まで全く実践できていなかったことに啞然とした。また、大学時代の先生の言っていた「書は説明してはいけない」という言葉も心に残っている。当時の私は理解できるはずもなく、今以てわかるなにまだ。説明しないとはどういうことか、永遠の課題である。

岩垣先生の言われた「存分に書ける時」は正に今のことだと思う。しかし書く前にすべきことに多くの時間を費やし、いざ筆を手にすると焦ってしまう。その結果、またうまくいかなかつた、ということを繰り返しているのが現状だ。なぜ書道をやり続いているのか、自問してみる。それは、時たま訪れる楽しいと思える瞬間があるからだ。その一瞬を求めて、これからも一步ずつ前に進んでいきたい。



書のひろば

理事長 辻 元 大雲

創立75周年記念書道芸術院展

審査会員・同候補作品搬入
表彰式・作品研究会など諸行事も中止
を決定 会場風景をホームページにて
バーチャル映像で視聴も(2/7以降
予定)

第75回記念書道芸術院展搬入状況

| 部門 | 審査候補 | 前回展 | 審査役員 | 前回展 |
|--------|-------|-----|------|-----|
| 漢字部 | 221 | 226 | 177 | 178 |
| かな部 | 43 | 46 | 49 | 50 |
| 現代詩文書部 | 220 | 227 | 168 | 166 |
| 篆刻・刻字部 | 19 | 16 | 19 | 18 |
| 前衛書部 | 126 | 127 | 110 | 106 |
| 合計 | 629 | 642 | 523 | 518 |
| 増減 | (-13) | | 5 | |

い状況であった。
1月27日に東京都美術館に作品搬入が行われ、28・29の両日特別賞選考委員(財団理事・監事)による審査が行われた。

28日 審査会員候補選考(大賞・準大賞・記念賞・白雪紅梅賞・俊英賞)

29日 審査会員選考(春華賞・記念賞)併せて秋季展出品作家(推薦作家を含む)、76回展大作出品者の選考も行われた。入賞者速報は別掲(47ページ)。

・会期 2月5日(土)～11日(火)

・会場 東京都美術館

昨年末の一般公募・無鑑査作品未表装での鑑別審査終了し、本年1月19日審査会員・同候補作品の書類搬入が行われ、別掲の通り搬入された。役員作品も一般公募・無鑑査と同様、若干の減少があったが、現下の新型コロナウイルスの蔓延の影響からもやむを得ない。

・表彰式 2月6日(日)および記念展に当たり功労者表彰が表彰式前に行われる予定であったが、1月17日75回展運営委員会(院理事監事)に緊急提案を文書にて行い、現下の状況から物故者慰靈祭を含め開催を取りやめることがとなった。本展の祝賀会中止と合わせて了解を。さらに作品解説会(5日、11日開催予定)も中止となつた。

創立75周年記念特別展示

「香川峰雲遺作展示」

院創立75周年を記念し院創立の祖、香川峰雲第3代会長の遺作を特別展示する。

毎日芸術賞に下谷洋子氏輝く

香川峰雲先生は本院創立に尽力され、野村吉三郎、松尾英敏、中村庸一郎など、当時の政財界の有力者の強い支援を受け、創立趣意書に名を連ねた24名と共に昭和22年11月23日に本院を創立された功労者であり、実質的に本院の組織の基盤を築かれた大先達である。

昨年7月、銀座和光ホールにて開催した「上州の韻き」によなく・かな下谷洋子書展」が高く評価され、第63回毎日芸術賞を受賞された。本年1月1日毎日新聞紙上にて発表され、本院にとり初の快挙となつた。芸術文化の

皆様ご存知の通り先生の斬新な篆刻として新しい書表現として新分野の刻字表現を確立した先覚者である。今回は先生の篆刻、刻字の代表作をほぼ網羅しての遺作展示を行う。

会期中2月5日(土)11時から、日本刻字協会会長をお務めのそして香川先生によるギャラリートークを企画しているがこれも中止となつた。作品展示は是非ご覧いただきたい。

現代の書新春展華々しく開催

新春東京銀座を書で彩る恒例の「現代の書新春展」(和光23人展とセントラルミュージアム銀座での100人展が1月4日から9日まで開催された。和光会場では本院から下谷洋子と辻元大雲2名が出品。100人展には本院から6名(大石仙岳・大隅晃弘・小林琴水・浜谷芳仙・半田藤扇・真下京子)が出品した。本年から100名の選抜方法が変わり、今回は西暦偶数年生まれから選抜された100名で、さすが毎日書道展を代表する作家群の作品で充実・多彩な練度の高い作品が展示されていた。(本号掲載の特集面を参照)

2022冬季オリンピック開催に合わせ、中国と世界各国の人々の理解と友情を深めるため、中国人民对外友好协会主催により、国内外の関連文化機関と共に同で60点の作品を募集し、1月18日表記の催しが「オリンピック精神を発揚し、文明の相互交流を促進する」をテーマに挙行された。

日本側代表 日中文化交流協会副会長・理事長 栗原小巻氏挨拶

中国側 中国人民对外友好協会会长 林松添氏、中国書法家協会名誉主席 蘇士樹氏

その他ギリシャ共和国駐中国大使、フランス美術家協会主席などを

座談会テーマ

多方を対象に選考される本賞は極めてレベルが高く、書道部門では6～7年ぶり、17人の受賞となつた。本号46ページに受賞記事が掲載されているのでご参照いただきたい。

贈賞式は2月3日東京椿山荘にて挙行される。先生の今後益々のご活躍、ご発展をお祈りしたい。

新年を祝い、冬季五輪を迎える―国際名家芸術作品オンライン展―開幕式及び座談会 開催

「新年を祝い、冬季五輪を迎える―国際名家芸術作品オンライン展―開幕式及び座談会 開催

2022冬季オリンピック開催に合わせ、中国と世界各国の人々の理解と友情を深めるため、中国人民对外友好协会主催により、国内外の関連文化機関と共に同で60点の作品を募集し、1月18日表記の催しが「オリンピック精神を発揚し、文明の相互交流を促進する」をテーマに挙行された。

日本側代表 日中文化交流協会副会長・理事長 栗原小巻氏挨拶

中国側 中国人民对外友好協会会长 林松添氏、中国書法家協会名誉主席 蘇士樹氏

その他ギリシャ共和国駐中国大使、フランス美術家協会主席などを

座談会テーマ

①「五輪精神と人類運命共同体」
②「芸術の多様化表現と文明の相互交流」辻元大雲日本側代表として意見と共に作品発表
③「芸術家の創作体験及び観客の視点」それぞのテーマにつき各国代表から意見発表と交換が行われた。

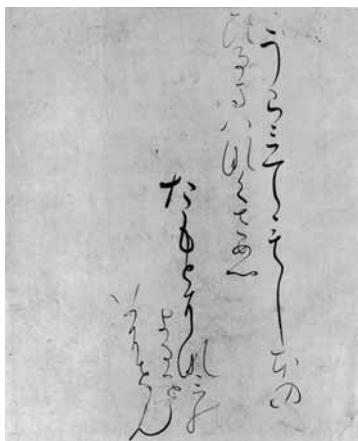
かな基礎基本講座(21)

下谷洋子

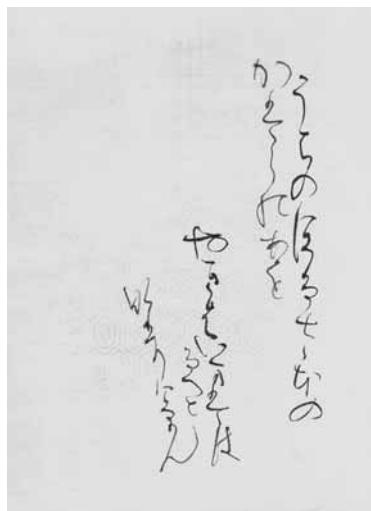
かなの書式 散らし書き④

升色紙による創作への展開 II

升色紙のこの部分は、高校の書道の教科書にもよく掲載されるほど有名な箇所です。やゝ右に行を集め、長い行と短い行を組合せた散らし書きです。行間の広狭の変化と共に、墨量と太細の工夫で、行間が狭くてもうるさくありません。



参考作品



かわらけのひらがな
川原の青柳は
今は春へとなりに
けるかも
(万葉集)

玉毛を使用。
豊穣な線と穂先を
生かした細線が、
升色紙の雰囲気を
かなりよくとらえ
ている。

(大辻多希子書)

このように行が接近する場合、より字組にも注意が必要。文字の大小の変化は、行をヨコに見ていくとよく解かる。左右、同じような文字が揃うことではない。

うらみてもしほの
ひるまはなぐさめつ
たもとになみの
よるを
いかにせん

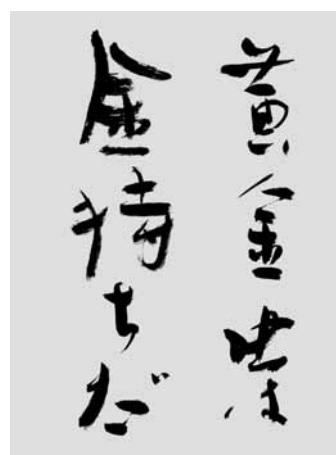
うらみてもしほの
ひるまはなぐさめつ
たもとになみの
よるを
いかにせん

現代詩文書基礎基本講座(21)

小竹石雲

【臨書から現代詩文書への展開】

①木簡風のひらがな表現方法



- ②木簡風の現代詩文書・肉筆である木簡は当時の日常のメモ的なものなので、極度な文字の大小、太細の変化は極力おさえた。また行の流れ、運筆においては緩急、抑揚の変化を、ごくごく自然に行つた。
- ・作為的にならず、あるがままの姿を表現するにあたっては童謡などが適していると思った。
- ・氣を張らず、筆が執れると最高ですね。

現代の書 新春展

今いきづく墨の華

(2022)

和光ホール23人展 2022年1月4日(火)～9日(日) 銀座・和光本館6階

セントラル会場100人展 2020年1月4日(火)～9日(日) セントラルミュージアム銀座

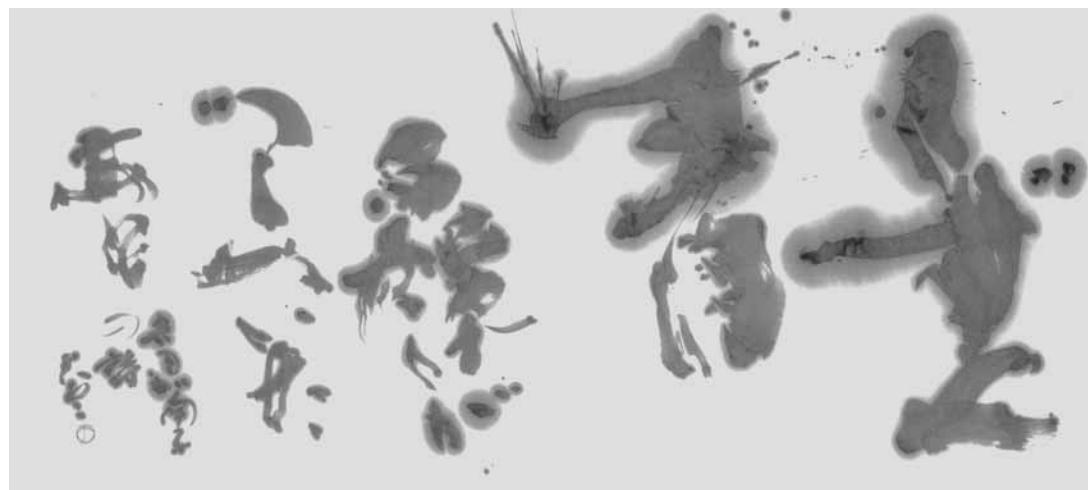
主催：毎日新聞社・(一財)毎日書道会

〈和光ホール23人展〉

干支文字



辻元大雲



「しづく」吉田加南子

74×165cm

干支文字



下谷 洋子



「いのちの樹」内藤明

61×163cm

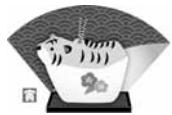
《院関係出品者》

◇和光ホール23人展

辻元 大雲
下谷 洋子

◇セントラル会場100人展

大石 仙岳
大隅 晃弘
小林 琴水
浜谷 芳仙
半田 藤扇
真下 京子
(50音順)



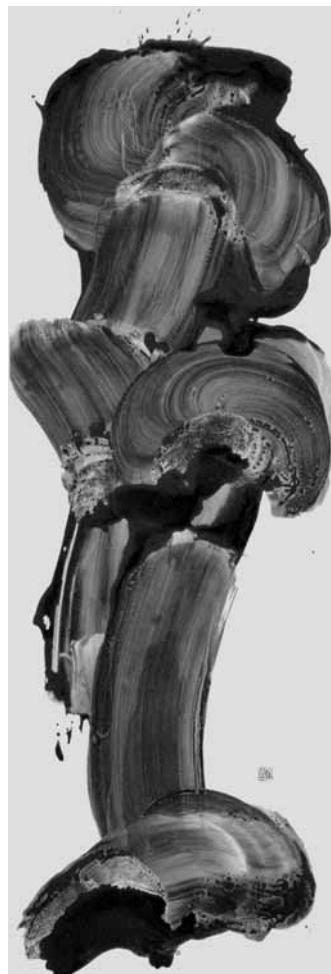
〈セントラル会場100人展〉

(50音順)

干支文字



「辰」による



176×60cm

干支文字



大石仙岳



「いろは歌」

83×116cm

大隅晃弘

干支文字



「桃」

小林琴水



120×90cm

干支文字



浜谷芳仙



「仁」による

70×150cm

干支文字



半田 藤扇



「光芒一閃」

56×176cm

干支文字



真下京子



「sinsou-深層」

105×105cm

古典鑑賞

行草木簡 ②

る文字を多く見ることができる。当時の人々の生活に欠かせない実用の書であったが、それがしだいに整理統合されていった。「敦煌漢簡」や「樓蘭晋簡」などにみられる草書や行書は、書体研究の資料として貴重であり、また書としての鑑賞や表現学習の好材料といえる。

①敦煌漢簡

(大英図書館蔵)



②敦煌漢簡

(大英図書館蔵)



可以殄滅諸反國立大功。公輔之位。君之常有…… (120%拡大)

③敦煌漢簡

(大英図書館蔵)



北部候長高翬。頗首死罪敢言之。(130%拡大)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

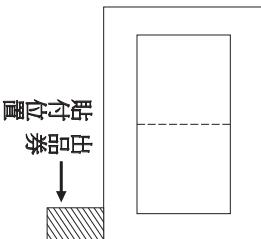
※ 特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙(約68×68cm)以内も可(縦横自由))

→ご注意// 今月の特別研究部は当ページ上記掲載の①・②・③「敦煌漢簡」の中から臨書箇所を選び、出品して下さい。

(編集部)

*落款を必ず入れる。名前(河内みゆき) 署印のみ

※色紙の原寸サイズ
24.0 × 12.5 cm



〈半紙ヨコ形式に限る〉

神か可く
の邊
か兩
し
び
り
め
る
え
み
そ
う
く
さ
む
き
き
の
見
山

※掲載図版・82%に縮小

特別研究部臨書課題

(伝) 小野道風筆(おの の みちかず し)

古筆鑑賞

215

○アズに切って使用のじ(と)。

左記の古筆の掲載部分の歌一首を書く
別紙を裁断して貼付可。(半纏細は半纏サ

特別研究部臨書課題

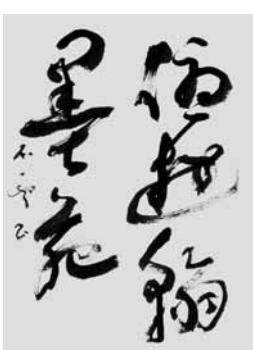
100-1000-1000

習い方解説 (五)

小竹石雲
(無著道忠)

優遊輪墨苑
(輪墨苑に優遊す)

書の世界に悠々と生きる、の意。
この後に「親見古人心」(過去
の人々の心に触れる)と続く。
古の人々の思いに触れることが
できる書の素晴らしいを詠つた
もの。



書を勉強する我々にはもってこ
いの語句です。先月同様草書です
が、今月は連綿を加えて速く書い
てみました。世に言う明清調です。
参考例を発展させたものです。流
動美に重点をおき、それにはまず
運筆は迷いなく、文字の大小、線
の太細、強弱、墨の潤渴などに注
意を払いながら緩急をつけて書く
ことが大切です。

漢字規定秀級以下【三月十五日締めきり】用紙半紙普通判

前田龍雲選書

習い方解説(五)

前田龍雲

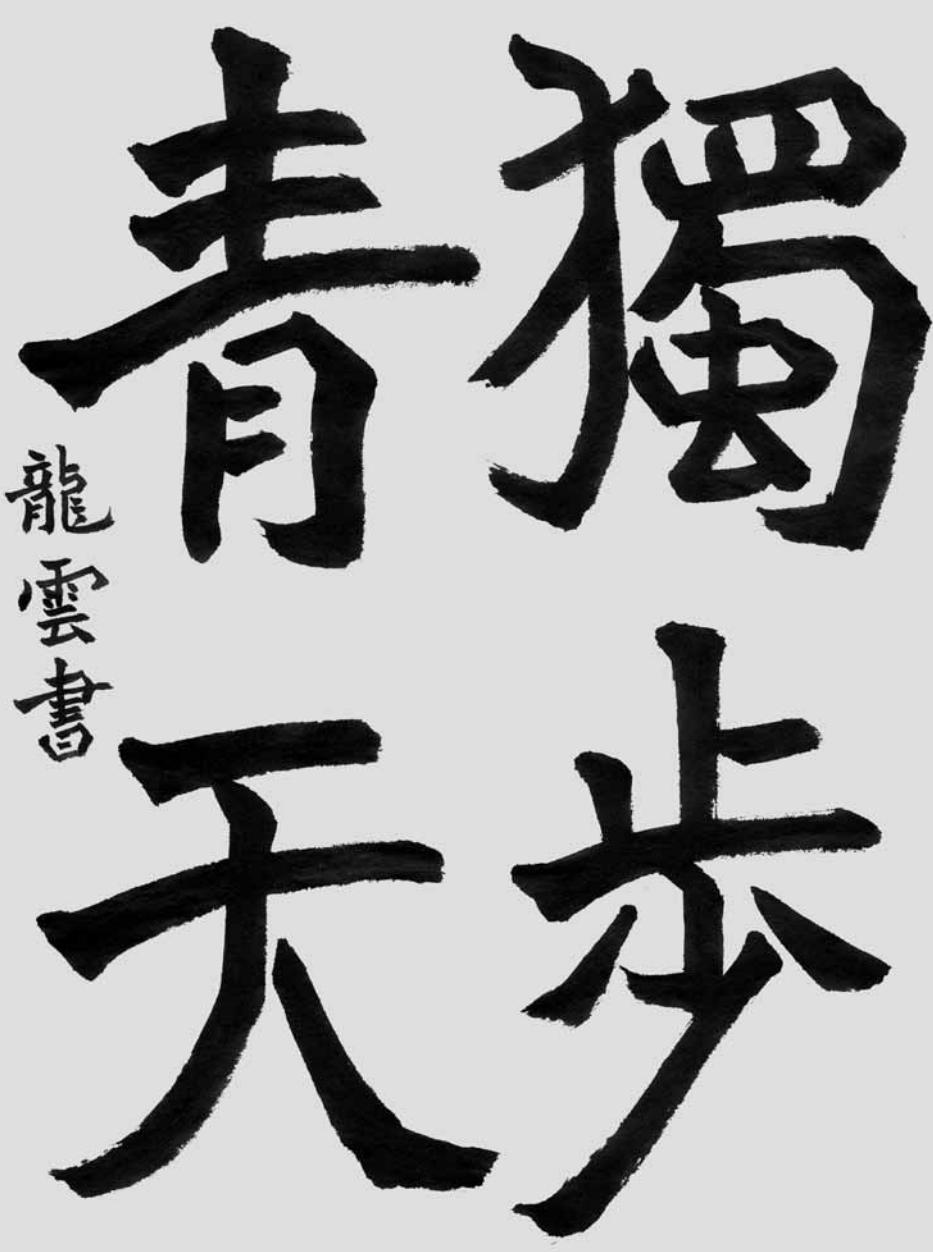
獨歩青天
(青天に独歩す)

青空の下を一人で歩く。何事にも束縛されることなく自分の道を歩むこと。独りよがりになること無く、自分に自信をもって、自分らしく生きていきたいという思いでこの句を選びました。そして、

素晴らしいものや場所、素晴らしい人たちに刺激をいただきながら、毎日を素敵に過ごしたいと思っています。

今回は500年頃に書かれた鄭道昭の書風を参考に書きました。時代的に篆隸風の趣があり、円筆と方筆が交わりゆったりとして息の長い線が特徴で、雄大な自然を彷彿とさせる文字です。

〈鄭羲下碑〉



書体=楷書



かな規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書

習い方解説 (二)

石井明子

梅二月ひかりは風とともにあり
(西島麦南)

「梅、二月とも季語。ようやく梅の咲く「月となり、風にも光を感じるようになった」」の意。

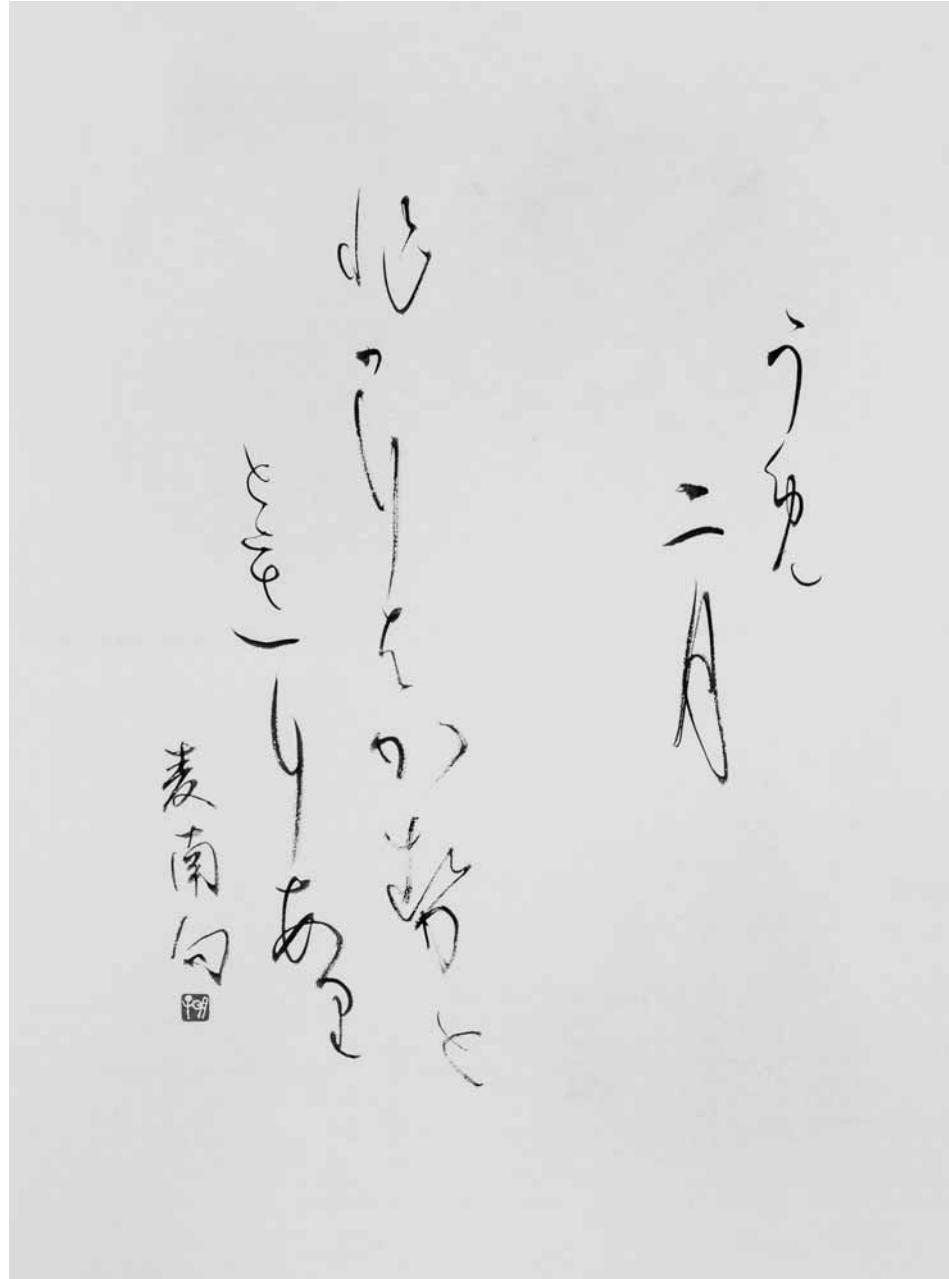
近年、四季が不明瞭になった気がしますが、今年の寒さはこの句の喜びが共感できます。麦南は岩波書店で校正の神様といわれた人。

俳句は作者の用字の置きかえは好みませんが、紙面が貧弱にならないうことは大事です。字幅のある字や複雑な変体がなを使って単調さを避ける工夫をしましょう。字粒も短歌との違いを意識して大きめにしましょう。私はどんな作品も風通し良く明るく仕上がるよう心がけて制作しています。難しく考えず最後はたのしかったと感じられることが大切です。一字ずつ苦労しながら、未熟でも大胆に表現することをお勧めいたします。

* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

よみ方 梅(う免)一月ひ(卉)か(可)りは(者)風(か勢)とともに(毛)に(耳)あり(里) 麦南句

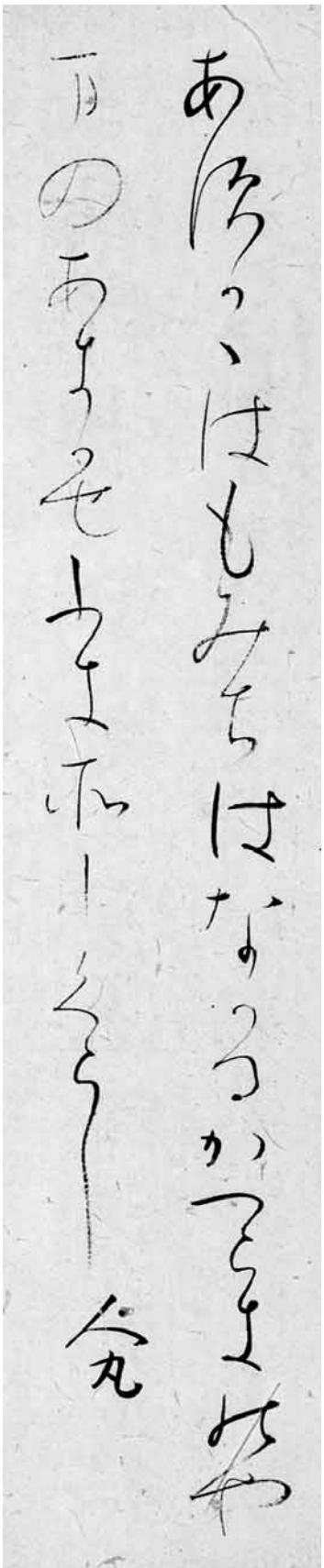
創作



かな規定 秀級以下【二】[一月十五日締めきり] 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 あす(須)か(可)ゞはもひばなが(可)るかづらき(支)の(能)や

ま(万)のあき(支)か(可)ぜふき(支)ぞ(所)しく(久)らし入丸

習い方解説 (二)

松村 くに子

山里は讀みわたれるけしきにて

そらにや春の立つを知るらん

(西行「山家集」)



1行目のように縦長の文字が少ない場合は、だらだらとなりがちです。軽快でリズムカルな表現にしたいですね。それにはまず運筆の速度の変化が必要です。連綿を意識しながら連綿線を切ってみるのも良いでしょう。

2行目「を」と「し」を少し重ねて、「升色紙」を意識してみま

創作

*タテ形式に限る

よみ方 山里(佐と)は(八)霞み(い)わ(王)た(冬)れるけ(希)し(西)き(支)に(一)て
そら(空)に(耳)や春の立つを知(う)るらん

漢字条幅規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (五)

名 越 蒼 竹



春烟寺院敲茶鼓 夕照樓臺酒旗
(春烟の寺院 茶鼓を敲き、夕照の樓台 酒旗卓し。)
(林逋詩「西湖春日」)

書体=自由

縦書き作品では字間を詰め、行間がしっかりと見える書き方のほうがまとめやすいかもしれません。しかし字間と行間両方の美しさを指すことは技量を高める上で必要なことだと思います。そこで字数を14文字に戻し、文字の大小・傾斜や、文字の疎密変化を求めるがら、できるだけ気楽な気分が表現できなかと書いてみました。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

上京できにくくなつた時期、最前線で活躍する書家の皆様は、ごく普通に作品制作をしていました。それもとても高いレベルの作品が並んでおり、時間を忘れて作品に見入ってしまいました。

勿論、「書道を止めるな！」と覚悟をもつて率いてくださっていますしあわせを感じながら、私たちには研鑽を積んでいきましょう。

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

山河四望春
(山河四望の春) (駱賀王)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (五)

川 島 舟 錦



舟錦書

小林琴水

大切な人への
まごころをなくさない
貧道と君と遠く相知れり、
山河雲水何ぞ能く阻てん。

(性靈集)

あなたのことを見わない日はありません

琴水

「私とあなたは遠い昔から知る仲、山河
雲水がどうして二人の友情を隔てられましょ
う」。そして「山にこもる身と辺境の官吏
という身ではありますが、あなたを思わな
い日は一日たりともありません（白雲の人、
天辺の吏、何れの日か念ふこと無からん）」
その身を気づかうような文面ですが、「貧
道」とは僧の謙称で空海自身のことである。

大切な人への

まごころをなくさない
貧道と君と遠く相知れり、
山河雲水何ぞ能く阻てん。

(性靈集)

あなたのことを見わない日はありません

空海「黄金の言葉」より

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさに「ぱらつき」が見られます。
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

如月 立春 青森県 秋田県
如月 立春 青森県 秋田県

益々ご健勝のこととお喜び申し上げます

益々ご健勝のこととお喜び申し上げます

岩垣若翠

(楷書) 如月 立春 青森県 秋田県
(楷書) 益々ご健勝のこととお喜び申し上げます

(行書) 如月 立春 青森県 秋田県
(行書) 益々ご健勝のこととお喜び申し上げます

基本用語 「如月」旧暦2月の別称。「立春」暦の上で
春に入る日。2月4日頃。節分の次の日に
当たる。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 728

ペン字部 師範 安藤 叙孝
字形もよく整い、滑らかな筆致で最終まで一貫した呼吸で書かれていて、格調高い作品になった。

◎ペン字部総評 多字数の課題で全体のバランスをとるのに苦労のあとが見える作が多かった。「尊」字に誤字散見。注意！（豪峰評）

曲がった個性も生かし、互いを尊重し合う
良工が材を用いる。その木を屈せずして廻を構う。聖君の人を使う。その性を奪わずして所を得しあ。（性靈集）
個性を生かしてこそ大きな和が生まれれる。
（叙述書）

漢字条幅部 師範 井ノ口春峰

切れ味よい筆致が小気味よいりズムを生き、爽やかな作となつた。落款署名と印の位置一考を。

◎漢字条幅部 総評 上級20字表現は平凡な作多かったが、比較的安定よくまとまっていた。下級二行書は大胆な取り組みを。（大雲評）



前衛書部 特選 津田 隆子

単筆をうまく使い立体感、躍動感溢れる作となつた。空白を生かし印の位置も作品効果をあげた。

◎前衛書部総評 墨色、紙面構成等の工夫がみられる作品が多く、益々の前进を期待する。（豪峰評）



現代詩文書部 特選 坂本 芳博

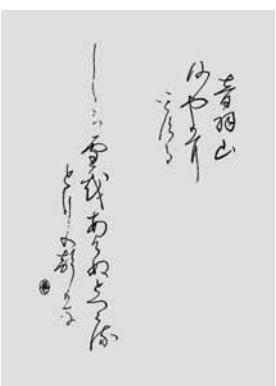
大胆な筆致で線がよく引き深く沈む。大小の文字構成・墨量等、

作品作りのツボを得た快作。

◎現代詩文書部総評 粗雑さ目立つ作品散見。運筆の自然なりズムを研究して欲しい。（昌峰評）



かな部 師範 片山 恵風
紙面への配分に注意！（洋子評）
力が出て、切れのよい流れを生む。
◎かな部総評 動きが小さいと文字も堅くなり、伸びやかなりズムが出ません。筆は軽く握ること。



漢字部 師範 渡邊 信代

西狭頌を思わせる肉太で重厚な線が充実。字形も安定。氣力に溢れ、堂々たる風格の隸書で見事。

◎漢字部総評 上級は隸書作品が多く見られた。線質と字形に変化を加え、バラエティーに富んでいた。行草作品も多彩。

（萬城評）



かな条幅部 準師範 早部 朗
かな条幅部 準師範 早部 朗

良工が材を用いる。その木を屈せずして廻を構う。聖君の人を使う。その性を奪わずして所を得しあ。（性靈集）
個性を生かしてこそ大きな和が生まれれる。
（叙述書）

◎かな条幅部総評 字粒大小変化の過剰、墨色等で紙面を汚くしての主張は快い。その上墨の扱いが見事で色、量の生む余白美秀逸。

（明子評）

漢字条幅部 師範 井ノ口春峰
切れ味よい筆致が小気味よいりズムを生き、爽やかな作となつた。落款署名と印の位置一考を。

◎漢字条幅部 総評 上級20字表現は平凡な作多かったが、比較的安定よくまとまっていた。下級二行書は大胆な取り組みを。（大雲評）

実用書優秀作品

選評 三浦 鄭 街

◎ 実用書部総評

見応えのある作品が多く見られた。本文と落葉の調和が整っていない作品も散見。氏名氏号の位置と大きさに細心の注意を。

歳の瀬の慌ただしい日々になりまいた
茂木絢水

歳の瀬の慌ただしい日々になりました
冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに
冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに
歳の瀬の慌ただしい日々になりました
茂木 紗水

歳の瀬の慌ただしい日々になりました
鷺山美絵

冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに
冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに
歳の瀬の慌ただしい日々になりました
歳の瀬の慌ただしい日々になりました

大作の部

臨書 (大雲) 鷺山美梢 「伊都内親王願文」



部分拡大

◆行間・余白を充分に取り、原帖の格調の高い雰囲気を醸し出している全臨作品。穂先の冴えが美しい。(青篁評)

鷺山美梢臨

67×165cm

漢字 (八街)
土屋聖峰
「劉禹錫詩」



土屋聖峰書

◆ダイナミックな運筆。潤渴の変化と共に動きある表現の作。やや粗さが目立つが、気迫に圧倒される。（大雲評）

佐藤成美書



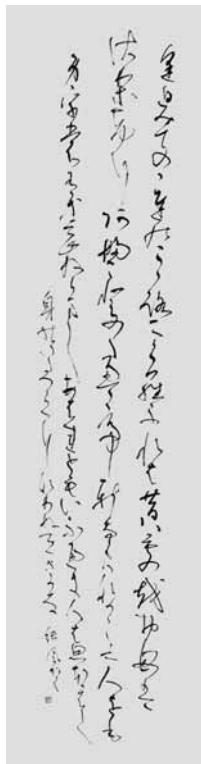
(仙草評)

240×60cm

前衛書
(紅瑤)
佐藤成美
「歩」

◆迫力があり見応えのある作品である。漢字の学習の背景を感じさせながら、しつとりとしなやかで見事。(明子評)

か な (山陽・奥田)
小林純風
「あひみての」



218×53cm

| | | |
|--------|-----|----|
| 青蓮 | 佐々木 | 藍水 |
| 松風 | 西條 | 松雲 |
| 大拙 | 阿部 | 俊吾 |
| 四谷 | 木原 | 尚子 |
| 玉州 | 角張 | 芳蘭 |
| (臨書の部) | | |
| 〔漢字〕 | | |
| 華祥 | 玉渕 | 良章 |
| 華祥 | 加藤 | 雅芳 |
| 紅瑠 | 木暮 | 千晶 |
| 紅瑠 | 相澤 | 敦子 |
| 「かな」 | | |
| 玄穹 | 千葉 | 陽子 |
| 清月 | 境野 | |
| 境野 | 和子 | |

泰香 小木曾泰香
千葉 影山 扇葉
「かな」
水塾 伊澤 香雨
「現代詩」
四枝 大友 四峰
誠和 石崎 甘雨
千葉 平野 笛舟

〔特選候補者〕

總出品点數
55 点

臨書の部(18点)
漢字 — 16点
かな — 2点

創作の部

漢字研究部
(伊都内親王願文)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



佐々木 藍 水



彩 雪 松 白 紅
翠 枫 篦 苑 香 霞

聖 清 雅 喜 三 白
佐 美 朋 麗 悠 子 恵 琴

香 初 祥 杏 清 陽
柳 美 扇 邑 耀 子

紅 美 麻 衣 惠 紅
紫 翠 子 泉 雲

漢字研究部 特選 佐々木 藍 水
濃墨をたっぷりと筆に含ませ、躍動的な筆であります。筆であります。確実な書きぶりが見事である。細線の部分も鋒先がよく立ち、技量の高さがうかがえる。字形と紙面への配置(章法)にも配慮が行き届く。

◎漢字研究部総評

課題の古典は用筆に逆入筆や俯仰法を用い、運筆もダイナミックなど、高度なテクニック

を駆使して書かれているため、筆脈が分かれにくい個所が多くあったと思います。臨摹するに当たっては、「見えるように書く」という考え方は危険で、写真では見えなくなっている点画がないか、字典で他の古典も参照して、誤字を書かないことも大切にしたいものです。今回も「愛」「便」「海」「縁」「圓」「三」などにかなり誤字が見受けられました。

＜第63回毎日芸術賞受賞者の業績＞

美術Ⅲ部門(書道)
「下谷洋子書展—上州の韻(ひび)き
こよなく・かなー」の成果
下谷 洋子さん



しもや・ようこ 群馬県生まれ。西谷卯木に師事。
1999年に第51回毎日書道展会員賞。2010年の「下谷洋子かな書展—沈潛と流れ—」で毎日書道
顕彰(芸術部門)。15年に第67回毎日書道展文部科学大臣賞。毎日書道会理事。書泉会主宰。70歳。

わが国の書の歴史上、仮名が漢字から生まれ、その漢字もわが国の感性にしたがって和様という姿に進化している。そして漢字と仮名は、平安時代から一体となって使用されており、漢字仮名交じりの表記の歴史は長い。ところが、現代の書は大きく漢字作家と仮名作家とに分かれている。また、近代詩文書や漢字仮名交じりの書と呼ぶ、現代の言葉を表現する作家はいるが、和歌や俳句等の古い作品を表現する現代書は多くない。仮名作家には、そうした傾向の作品をみるとあるが、もっと和様の漢字と現代の仮名とが融合した表現もあるべきで

あろう。こうした作品は、漢字作家が挑むよりも、仮名作家が和様の漢字と仮名を合わせる方が自然なことであると感じていた。そうした希望を強く感じたのが、下谷洋子氏の個展における大字作品、万葉仮名作品等である。一見したところ、仮名のか漢字なのかが判別できないほど両者が一体となっている。つまり、仮名はもちろんのこと独自の和様漢字の表現を作りあげ、仮名としても新しい漢字としても充実している。これは、現代の書の新しい姿を期待させるべきで優れた仕事である。(書文化研究者・筆の里工房副館長・名見耶明)

令和4年 1月1日付 每日新聞

祝

下谷洋子先生 (公財)書道藝術院常務理事
第63回毎日芸術賞受賞 おめでとうございます

●篆刻

【三月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰

でも出品可。

①篆刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由



○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の作文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

| (篆刻) | |
|-------|---------|
| 北日 | 成田 能喜 |
| 特選 | 佳作 (品賞) |
| 秀 | |
| 中遊雲 | 洞書 |
| 大綱 | 香書 |
| 芳琴 | 安藤 |
| 大雲 | 須賀澤 |
| 秀 | 一起 |
| 林中川 | 楊風 |
| 片岡 | |
| 淳研 | |
| 豪峰 | |
| 二治 | |
| 華仙 | |
| 幸喜 | |
| 華仙 | |
| 生丸山 | 永篁 |
| 入 | |
| 加藤 | |
| 吉原 | |
| (選外名) | |

| (創作) | |
|--------|------|
| 粹生 | 大石唯一 |
| 仙 | 宗宛 |
| 大 | 秀 |
| 心 | 茂木 |
| 入 | 鉢水 |
| 遊雲 | |
| 水 | |
| 雲 | |
| 入 | |
| (選外なし) | |

| 定価 | |
|-------------------------------------|------|
| 辻元洋一 | (大雲) |
| 発行人 | |
| アーティスト | |
| 印 刷 | |
| 株式会社 | |
| リ ン クス | |
| 発行所 | |
| 公益財団法人 | |
| 書道芸術院 | |
| 101-0031 | |
| 電話 (03)3861-1954 | |
| FAX (03)3861-1957 | |
| 振替 00150-4115055 | |
| ホームページ http://www.lms.co.jp/shohei/ | |

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和四年二月一日印刷發行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七三〇号

728号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

篆刻

創作

<特選>



「也軒」



「鳳舞」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一一六一七
東神田プラザビル三階
101-0031 電話(03)3861-1954 FAX(03)3861-1957

*お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

コロナ禍の中、当分の間十時～
十六時に時間の変更しております。

1部～9部までの1回の郵送料
1か月の購読部数が

| | |
|----|------|
| 1部 | 79円 |
| 2部 | 95円 |
| 3部 | 103円 |
| 4部 | 119円 |
| 5部 | 135円 |
| 6部 | 151円 |
| 7部 | 167円 |
| 8部 | 183円 |
| 9部 | 199円 |

10部以上は
送料免除